

徒の割合が県平均および全国平均より高い現状です。このことから、自分と違う意見に対して、自信を持って意見を言える生徒が多く、日常から話し合い活動を多く取り入れてきた成果であるといえます。

一方で、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という生徒が約 59.1%であり、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という問いに対して県、全国平均より生徒が否定的な回答をしており、学習の目的や方法が理解できていない面があるようです。今後授業において、学習内容と将来の展望との結び付けや日常生活につながる内容の活動や振り返りを丁寧に行うなどキャリア教育の視点で授業改善を行っていきます。

3 学校質問紙からみた学校の特徴(県や全国との比較)

本校は小規模校であり職員は全学年の授業を受け持っているため、すべての教員が全校生徒の状況を把握しており、連携した取り組みが行いやすいという強みがあります。ICTの活用においても、職員内で分からないことを聞き合える環境があり、日常のOJTを含めて研修を深めあっています。また、道徳を学年の枠を超えてシャッフルで行い、互いに参観することで意見を出し合って指導の工夫に努めています。

生徒においては、一人1台タブレットが配付され、健康チェックや授業の振り返りをしたり、分からないことを調べたりしているため、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という項目が高いと考えられます。

4 本調査問題の趣旨等を踏まえた授業改善(自校調査結果の分析から強みを伸ばし、弱みを改善する等)、家庭学習や補充学習等としての具体的な取り組み

ア) 授業改善について

すべての教科において、1時間のめあてを設定して、授業の最後にまとめています。また、振り返りシートを各教科工夫し、生徒の気づきや発見した考え方をその後の授業に取り入れています。しかしながら、振り返りシートでは書いているものの自分の言葉で相手に伝えることが苦手な生徒が多いため、今後は、授業内で発表したり説明したりする活動を取り入れていきたいと考えます。それと同時に、学校での学習活動が将来どんな力につながるのか丁寧に説明するなどキャリア教育の視点で授業を改善していきます。

職員の研修においては、引き続き四日市モデルの5つのプロセス(問題の理解→問題の特徴づけと表現→問題の解決→解決方法の共有→問題の熟考と発展)をふまえた授業づくりを各教科で取り組み、校内研修として相互参観という形をとり、問題解決能力を向上させる授業への理解を深め、授業力の向上に努めます。現在、すべての教員が教育アドバイザーまたは指導主事に授業を参観していただき、今後の授業改善につなげる取り組みをしています。

イ) 家庭学習の定着・工夫について

家庭学習の習慣がつくように、各教科で定期的に宿題を出し、授業で確認することを継続しています。学習習慣の定着を図るため、定期試験前にまとめて課題を与えるのではなく、こまめに宿題を出すことを心がけています。第3学年では、帰りの会の時間を利用し、3つのレベルから自分で選んだ問題集を用いて中学校3年間の基本の復習ができるように自主学習を進めています。また、教科によっては、毎回の漢字テスト、小テストを実施したり、定期的に単元テストを実施したりして自分の定着度を確認させ、定期テストに向けて家庭学習がしやすくなるような工夫をしています。

ウ) 補充学習等の充実について

定期テスト期間、及び長期休業中には質問日を設け、生徒の疑問が解決できる時間を保証しています。また、長期休業中には、学力の不安な生徒を対象として宿題に取り組む学習会を4回程度行い、分からない問題をそのままにしないよう職員に質問のできる状況の下で課題に取り組める日を設けています。また、この取り組みは、1学期の三者懇談会で保護者の方にも周知してご家庭と協力しながら進めています。